

1 協議会委員及びパブリックコメントの意見

第1回まちづくり協議会後に、『都市計画道路はりまや町一宮線(はりまや工区)の工事を中断している区間の整備のあり方について』以下のとおり、意見公募を行いました。

○意見公募期間

H29. 7. 12(水)からH29. 8. 10(木)まで

○意見を求める資料(計画等の素案)

＜第1回はりまや町一宮線(はりまや工区)

まちづくり協議会資料＞

資料01 会次第

資料04 設置要綱

資料05 設立趣意書

資料06 これまでの経緯

資料07 供用区間の整備状況

資料08 調査結果の報告

資料09 工事中断区間の現状

資料10 工事中断区間の現在の計画

資料11 今後の協議会の進め方

＜関連資料＞

第4回新堀川自然環境観測・検証専門委員会資料

・新堀川自然環境観測の検証(概要版、詳細版)

・シオマネキの個体数調査の検証(概要版、詳細版)

※第1回はりまや町一宮線(はりまや工区)

まちづくり協議会議事録 H29. 7. 18公表

○資料の閲覧場所

・高知県ホームページ

・県民室(本庁舎1階)

・各福祉保健所(須崎を除く)、須崎農業振興センター

・高知県土木部都市計画課(本庁舎6階)

・高知土木事務所

○意見の提出方法

・電子メール、郵送または持参、FAX

○様式

・参考様式を添付

○意見の提出にあたっての留意点

・個人の場合は、氏名・住所・電話番号等の連絡先を、

法人の場合は、法人名、所在地、電話番号を記載

・意見は日本語に限る

・意見が1000字を超える場合は、内容の要旨を添付

・電話による意見の受け付けは行わない

○個人情報の利用目的

・個人情報は公表しない

・意見の内容確認等以外の用途では使用しない

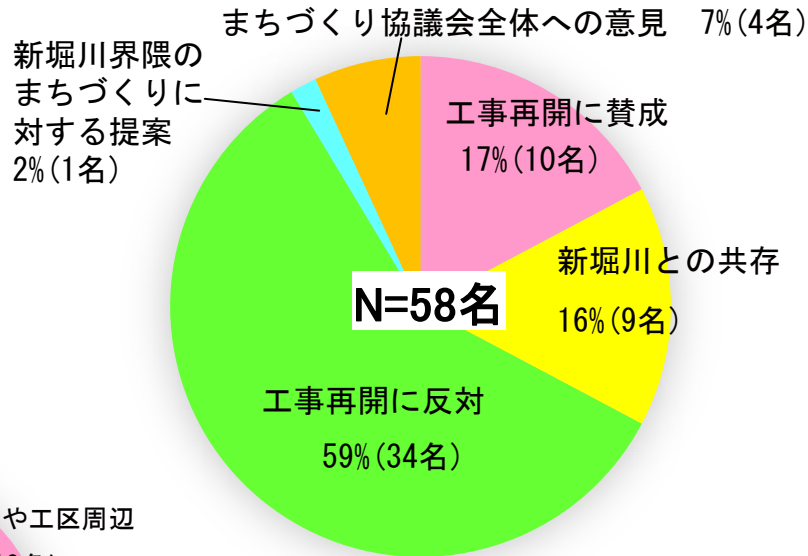
1 意見公募(パブリックコメント)について②(意見の集計)

■意見(パブリックコメント)の集計

○提出された意見の数

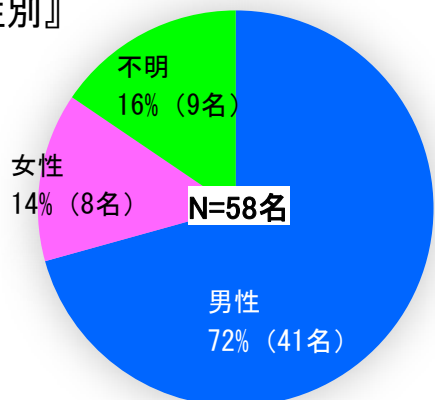
- ・ 工事再開に賛成
- ・ " " に反対
- ・ 新堀川の環境と道路整備が共存すべき(提案等含む)
- ・ 新堀川界隈のまちづくりに対する提案
- ・ 協議会に対して

58名(人・団体)
 10名(人・団体)(17%)
 34名(人・団体)(59%)
 9名(人・団体)(16%)
 1名(人・団体)(2%)
 4名(人・団体)(7%)

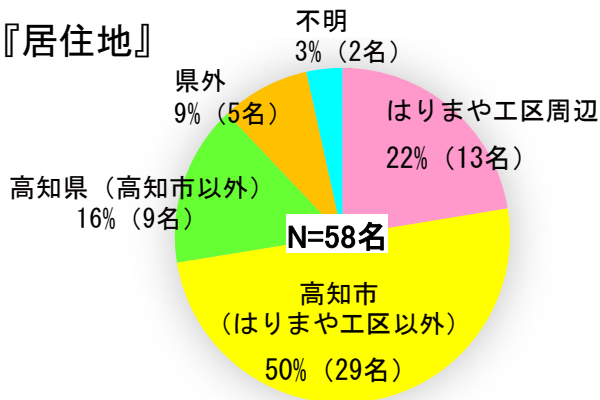


■提出された意見の属性

『性別』

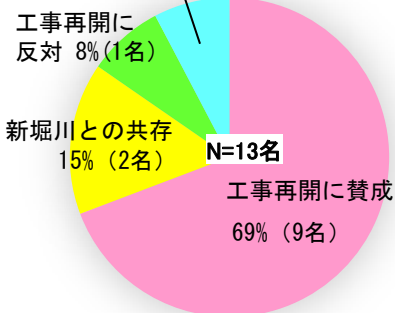


『居住地』

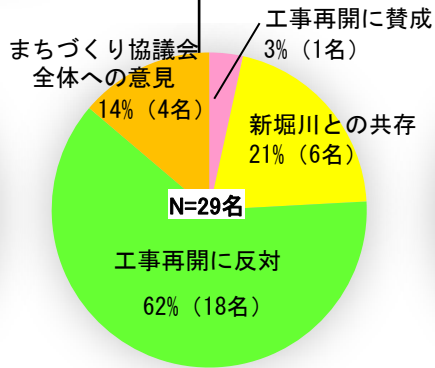


※グラフは団体についても「名」で表現
 ※性別は、氏名からの推測
 ※団体の性別については、代表者の性別で分類
 ※住所が「高知市」のみ記載の場合は、高知市(はりまや工区周辺以外)に分類
 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない

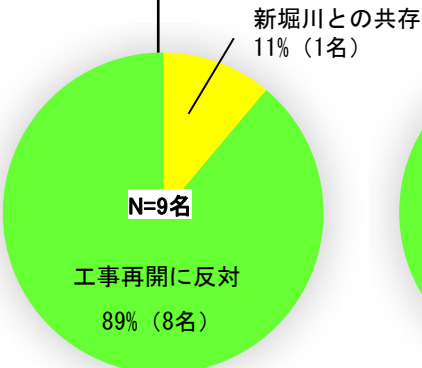
新堀川界隈のまちづくりに対する意見 8%(1名)



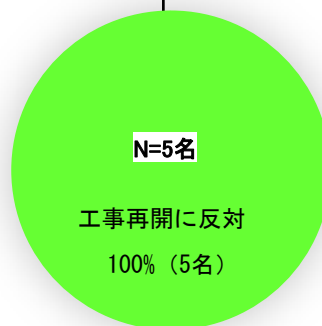
はりまや工区周辺



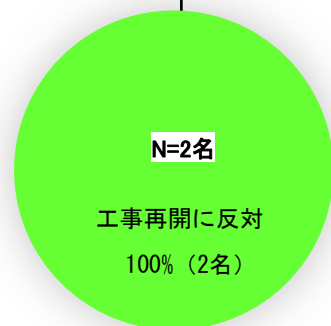
高知市
(はりまや工区以外)



県内
(高知市以外)



県外



不明

道路計画に対する意見

【まちづくり協議会委員の主な意見】

○地域住民を代表する委員(5名)

- ・シオマネキの生息と道路拡幅の両方ができたらいい
- ・早く道路整備をやらしてもらわないと困るという意見が多数
- ・道路を拡げてほしいという意見が非常に多い
- ・町内会のほとんどの方が工事再開に賛成
- ・時代に合った一番大事なものをやっていけばいい

○環境保護に取り組む委員(2名)

- ・高知県民のためにお互い志をもって活動していくべきだ
- ・先輩たちが守ろうとした新堀川は、今のままでおいてほしい

○学識経験者(4名)

- ・環境、安全、文化をどう両立させるか知恵を絞るべき
- ・自然が残っているという空間を造り上げることが大事ではないか
- ・シオマネキの生息場所は他にもたくさんある
- ・交通の安全性と自然環境の二者択一ではなく両立が望ましい

○まちづくりの行政関係者(1名)

- ・環境面に最大限配慮した形での整備をお願いしたい

【パブリックコメントの主な意見】

○賛成意見

- ・通学路の安全を第一に、交通事故が起きてからでは遅い
- ・渋滞を緩和し、地域の生活を安全にしてほしい
- ・災害に強いまちづくりのために4車線整備が必要

○反対意見

- ・都市部の中心にある貴重な自然環境を破壊し、希少動植物を死滅させるな、また今のままの自然を観光資源として活用すべきだ
- ・駐車場を撤去し、川面を表に出すだけで良い
- ・人も車も減るので整備の必要性はない

○新堀川的环境との共存意見

- ・身近な自然を思い遣る区間整備の方法を
- ・4車線を2車線に変更したり、高架橋にして堀を残してはどうか

まちづくり協議会に対する意見

- ・協議会に歴史の専門家委員や環境共生課の参加を求めるべき
- ・協議会の回数を増やすべきである
- ・女性や幅広い年齢層の委員を加えてほしい

新たな道路計画の提案

- ・日常的に道路を使われている住民の皆さんからは賛成の声が多い
- ・一方反対意見として、シオマネキ等の希少種や、まちの中の自然環境そのもの、また史跡等の保全を求める意見があった
- ・また、これらの環境などを残せるような工夫はできないものかとの意見もあった
- ・これらの意見を踏まえ、道路の外側の空間にも目を向け、自然環境の創出を図ったり道路の機能の一部を代替させたりした**新たな道路計画**を提案する。

【新たな道路計画の方針】

○安全で人にやさしい道路

- ・高齢者、小学生、自転車等が安心して通行できる道路幅を確保
- ・都市部の交通ネットワークを構築することで、周辺の渋滞を緩和し、地域の生活環境を改善
- ・東側の堤防沿いの市道に歩行者を誘導する案を検討

○自然環境の保全・創出(横堀公園前、駐車場撤去部)

- ・道路構造の見直しによりオープンスペースを拡大
- ・コアマモの生育に配慮した水環境を創出
- ・シオマネキ、トビハゼの生息に配慮した干潟環境を創出
- ・横堀公園前に新たなオープンスペースを確保
- ・東側の堤防に樹木を植え、緑環境を創出

○歴史的な街並み・風景の保存

- ・横堀公園前の西側護岸の石積は、できる限り保存
- ・東側護岸の石積は、江戸時代の積み方により復元を図る
- ・新市橋(幕末期新市町橋)は、歴史的情緒ある架替えを検討
- ・東側堤防沿いの市道は、「歴史の道」のような活用を検討

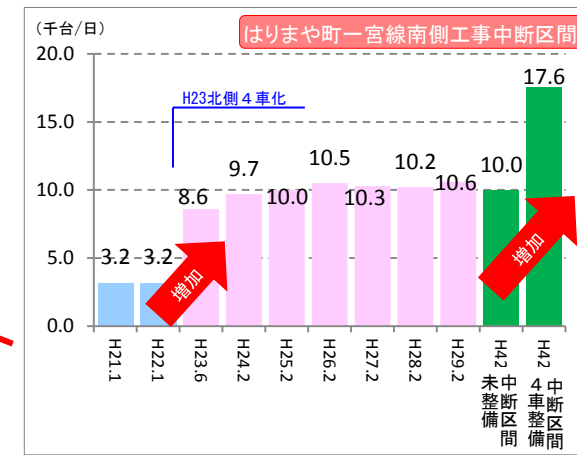
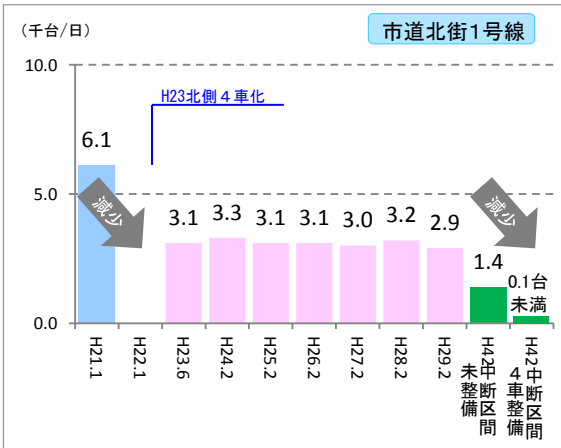
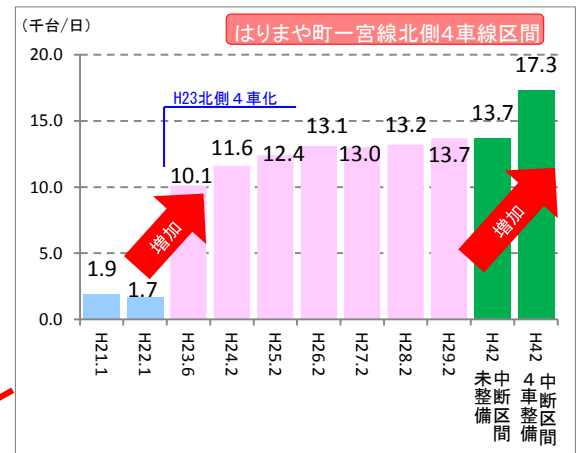
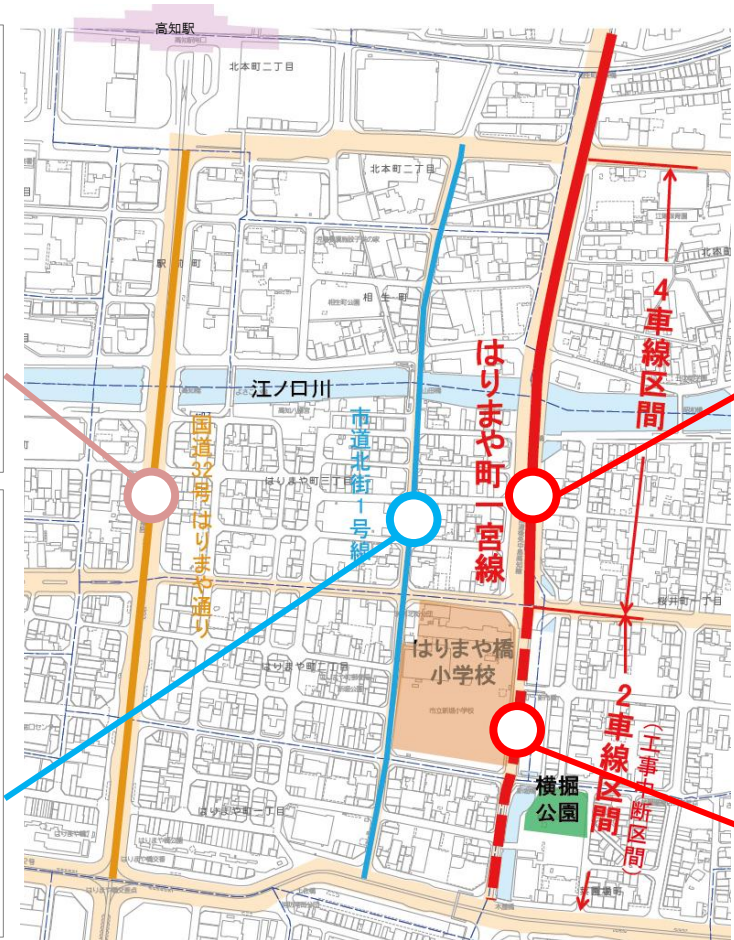
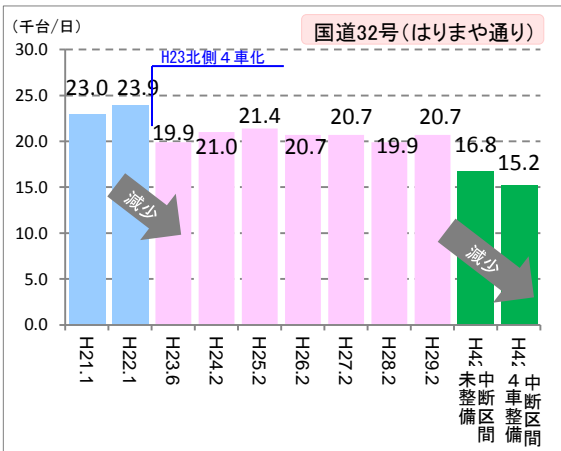
まちづくり協議会の運営方針

- ・歴史専門家の意見を協議会に反映する
- ・協議会の回数は限定せず議論を深めていく
- ・環境共生課は、今回からオブザーバーとして参加
- ・女性や幅広い年齢層の意見はパブリックコメントにより対応

3 交通量の推移及び将来交通量(H42)の推計

- 北側整備前（4車供用前）の実測交通量（実測した12時間交通量を道路交通センサスの昼夜率を乗じて日交通量に換算）
- 北側整備後（4車供用後）の実測交通量（実測した12時間交通量を道路交通センサスの昼夜率を乗じて日交通量に換算）
- 平成19年度に実施したパーソントリップ調査を基に、H27道路交通センサスの交通量と整合を図った上で平成42年における交通量を推計したもの（南側工事中断区間が未整備の場合、4車整備を行った場合の交通量）

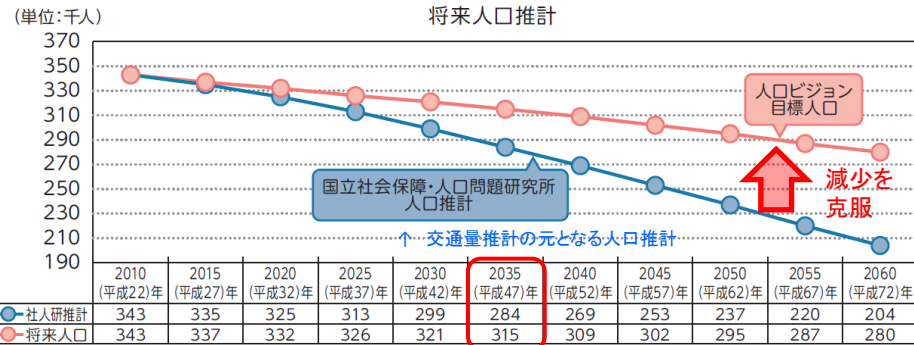
※第1回まちづくり協議会資料(交通量の推移 資料8-01)に将来交通量(H42)を追記



はりまや町一宮線(はりまや工区)の交通量は、現状及び将来推計においても4車線が必要となる9,600台を超過しています

■高知市における将来人口推計

- ・高知市では、平成27年10月に「高知市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(以下、人口ビジョンという)」を策定
- ・人口減少克服のため、人口の現状分析や将来展望とともに、高知市が直面する課題、さらには、目指すべき将来の姿を示している



【出典】
:2017高知市立地適正化計画

■2035年(平成47年)の高知市の人口推計

※2016年(平成28年)人口:33.4万人

国立社会保障・人口問題研究所人口推計 : 28.4万人 (15%減) ※2016年(H28)人口比

取組を推進
減少克服への

- ①合計特殊出生率を上昇 : 2.07
 - ・子育て世代支援策等の実施により、2035(平成47)年における合計特殊出生率を2.07まで段階的に上昇
- ②死亡率の改善
 - ・市民の健康維持・増進に向けた各種施策等の実施により段階的に死亡率を改善
 - ・男性の死亡率を2010(平成22)年の全国平均まで改善
 - ・女性の死亡率が2035(平成47)年までに男性の死亡率改善率の50%改善
- ③社会減の抑制 : 年間200組(約340人)移住の促進
 - ・移住の促進により、段階的な増加を目指す

人口ビジョン目標人口 : 31.5万人 (6%減) ※2016年(H28)人口比

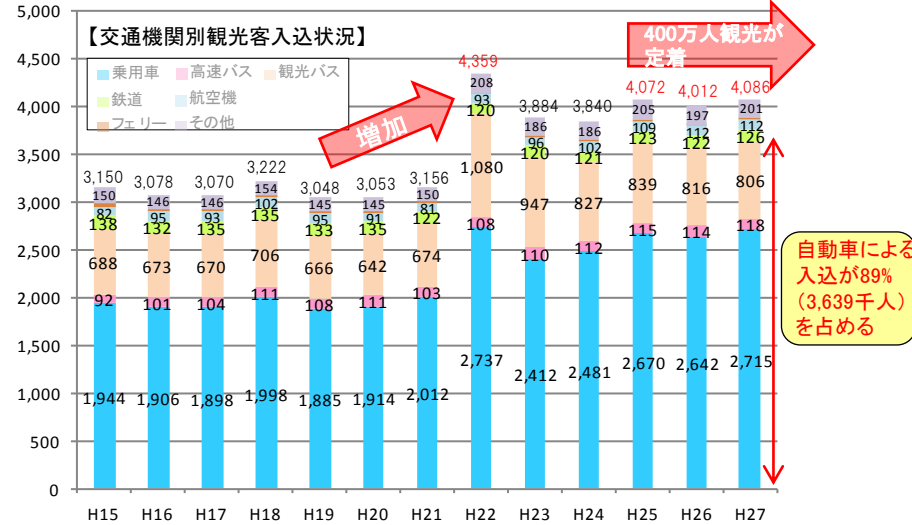
【出典】
:2017高知市立地適正化計画

■高知県における観光客の推移

- ・官民を挙げた取組により、県への県外観光客入込数は平成25年から4年連続で400万人を超えており、県では435万人観光の早期実現を目指した取組を進めている

■交通機関別観光客入込状況

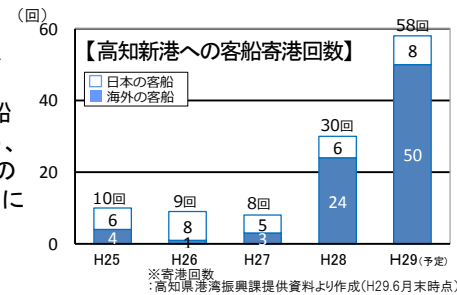
- ・平成27年の交通機関別入込数では、乗用車による入込が66%を占め、高速バスと観光バスを含めると89%(3,639千人)に上る
- ・また、県内16地域の立寄数は高知市が36.1%と最も多く高知県観光の中心となっている



【出典】:平成27年県外観光客入込動態調査報告(平成28年11月 高知県観光振興部観光政策課)

■高知新港への大型客船の寄港

- ・近年、外国クルーズ客船の高知新港への寄港が大幅に増加
- ・県では、新港のメインバース付近に乗船客等が利用するトイレの新設(H29.1完成)、税関・入国管理・検疫を行うターミナルの新設(H30年度完成予定)等を行い、受入強化に向けた取組を進めている
- ・また、高知新港から観光地には、主に大型バスで移動している



※寄港回数 : 高知県港湾振興課提供資料より作成(H29.6月末時点)



はりまや町一宮線(はりまや工区)まちづくり協議会
 設置 : 平成29年6月20日
 委員 : 地域を代表する者、地域の環境保護活動に取り組む者、学識経験を有する者等 計12名

第1回まちづくり協議会
 (平成29年6月20日)
 > これまでの経緯及び調査結果の報告
 > 工事中断区間の現状
 > 工事中断区間の現在の計画等

**第4回
 新堀川自然環境観測・検証専門委員会**
 (平成29年5月24日)
 ・新堀川の自然環境観測の検証
 ・シオマネキの個体数調査の検証

報告

第1回パブリックコメントの実施
 (平成29年7月12日～8月10日)
 ・第1回協議会の内容に対する意見公募

反映

第2回まちづくり協議会
 (平成29年9月5日)
 > 協議会委員及びパブリックコメントの意見
 > 新たに提案する道路計画の考え方
 > はりまや工区の整備のあり方

第2回パブリックコメントの実施
 ・第2回協議会における対応案及び工事中断区間の整備のあり方(案)に対する意見公募

反映

第●回まちづくり協議会
 > 第●回協議会における意見及び
 第●回パブリックコメントへの対応案

【提言書のとりまとめ】
 ・交通の状況やまちづくりの面からみた工事中断区間の道路整備のあり方
 ・新堀川に生息する希少動植物等の保全及び水辺の活用
 ・新堀川周辺の史跡等の保全及び活用 等

県に提言書を提出

県が工事中断区間の「工事再開」または「事業中止」を最終判断 (H29年度内を目標)